



12月の完成を目指し上棟祭が行われた
 檜葉町の清神社(6日、檜葉町で)



津波被害の神社 再建へ

檜葉で上棟祭

東日本大震災の津波で床上浸水の被害に見舞われ、解体された檜葉町前原地区の清神社が再建されることになり、上棟祭が6日、現地で行われた。

神社は震災前、春の神事や夏まつりなど季節ごとに行事が開かれ、住民の交流拠点だった。原発事故に伴う全町避難で長期間放置されたことで傷みが進み、氏子らが再建を目指して約5年前に解体した。

再建は住宅メーカー「創建」(大阪市)などが取り組む「災害被災神社再建・復興プロジェクト」の一環として無償で行う。7月から建設が始まり、12月に完成予定だ。

かつて約80人の氏子がいたが、現在、地元に戻っているのは35人という。氏子総代の梶原活司さん(56)は「神社は震災で離ればなれになっている住民の心のよりどころ。無償再建はとてもありがたい。来年8月には夏祭りを復活させたい」と話した。